

必須業務実績報告書提出時の書類及び記載事項自己チェックリスト

<本チェックリストの活用方法>

- ・必ず小児薬物療法認定薬剤師制度『必須業務実績報告書』作成の手引きを確認して報告書を作成ください。
- ・提出時に項目をチェック☑して、提出書類漏れ、今回の報告に必要な内容についての記載漏れがないようにしてください（報告内容に該当しないと判断した項目は☒をつけてください）。

介入開始年月日	西暦 年 月 日	介入終了年月日	西暦 年 月 日
提出分類 (○で囲む)	1. 新規提出 2. 再提出（再提出時番号がある場合は右に記載：)		
介入終了年月日 が該当する認定 の年数とこの報 告がその年の何 報目か	(以下は新規提出時のみ記入。該当年を○で囲み、その年の何報目かを記載) 1年目： 報目 2年目： 報目 3年目： 報目		
表 題 (再提出の場合、 当初の表題と同じ 表題を記載)	<input type="checkbox"/> 問題点と対応内容が反映された適切な表題となっている		

[提出書類]

- 必須業務実績報告書
- 小児薬物療法認定薬剤師 受講単位請求書（様式 10-6）
- 返信用封筒
 - 返信先の宛先の記載
 - 切手貼付（定型封筒 82 円切手）
- 必須業務実績報告書提出時の書類及び記載事項チェック表（本用紙）

[必須業務実績報告書の記載上の注意]

- 対象患者背景を除き、本文のみで 1,000 文字以上である
(文字数：)
- 2 枚に収めている
- 片面印刷である

[必須業務実績報告書の記載漏れチェック]

1. 対象患者背景

- 年齢 介入開始時に新生児・乳幼児では生後何日、何週、何歳何ヵ月、適切な単位で記載している
- 性別

- 体重
- 疾患名（特定の疾患に向けた薬物療法実施時は目的とする疾患を記載）
- 処方薬
 - 医薬品名（一般的名称も記載すること）剤形も含んだ名称で記入している
 - 用法
 - 用量
- 処方薬の評価
 - 適切または不適切の旨（疾患に適切な選択か、処方量変更や処方提案が本報告の主点である場合、考察で詳細に記載している）
 - 適応外使用の場合は特に根拠を参考文献等で明確に記載している
 - 評価理由（簡潔に） 例：○剤の一般的小児薬用量は○mg/kg/day であり本処方は適切等
- 介入前の治療経過 時間の流れが分かる様に配慮している

2. 具体的な薬学的介入内容

- 薬学的介入をすべきと考えた理由（問題点など）
- 薬学的介入開始後の経過（以下の内容を適宜）
 - 検査データの推移、（検査値単位も記載）
 - 症状等の変化
- 指導内容
- 薬学的介入後の効果（以下の内容を適宜）
 - 症状等の改善
 - 処方変更内容・処方提案内容
 - 血中濃度

3. この事例に関する考察

- 処方薬、薬学的介入内容の科学的根拠に基づいた評価
- その他考察

4. 参考文献 文献の記載時は以下の項目を参考に記載

- 添付文書・インタビューフォーム（改訂年月日を記載している）
- サイト名と URL（インターネットから入手した情報の場合）
- ガイドライン、書籍等（編者、著者、書籍名、発行年、発行者、学会名など記載できている）
- 論文（著者、論文名、雑誌名、発行年月、頁記載）